

## カトリック山手教会月報

## やまて



編集・発行 カトリック山手教会 広報委員会 〒231-8652 横浜市中区山手町44番地  
 ☎ (045) 641-0735 <http://catholicyamate.org/>  
 第657号 2024年11月10日

## 鈴木真主任司祭 主日ミサ説教

2024年9月1日 年間第22主日 B年

マルコ福音書 7章1-8 14-15 21-23節

「洗わない手で食事をする」…コロナ禍を経たいま“それはいかがなものか”と、ふと忘れてしまいますが…まあそれは置いといて…。

「昔の人の言い伝え」…これは広く律法や掟も意味している、と思われまます。いつも言うように「律法」は、もともと「出エジプト」という救いの出来事を体験したイスラエルの民が「こんなにも救われたのだから、救ってくださった神さまと、そして、救われた者どうしお互いを大切にしましょう」という、言わば「神と人とを大切に」という“リアクション”から生まれたものです。ところが、そこに生活の知恵的なものも加わって、「汚れ」という独特な考えに結びついていきました。律法を守らない者は罪に汚れている、その汚れた者に触れる者もまた罪に汚れる…というような。

イエスは、それを全部ひっくり返します。「外から人の体に入るもので、人を汚すものは何もない」…『聖書と典礼』の注書きにもあるように、旧約聖書にある「食べ物規定」の厳しさからすれば、これはユダヤ人にケンカを売っているとしか思えない発言です。要は「神さまの造られたもので“汚れた”もの（人を汚すもの）は何一つない」ということなのでしょう。むしろ、人がいろんなものを汚してしまうのだと。本当に大切なのは、神さまから離れがちになる

わたしたちが、常に神さまへと立ち帰ること。第2朗読に「み言葉を受け入れ、行いなさい」とありますが、これは、すなわち律法の根幹である「神と人とを大切に」ということなのでしょう。

いつも本当に大切な根源へと共に立ち帰ることができるよう、祈りたいと思います。



2024年9月22日 年間第25主日 B年

マルコ福音書 9章30-37節

「すべての人に仕える者になりなさい」…この「仕える者」と訳されたギリシャ語の〈ディアコノス〉は、後に「助祭」と訳されることになり、教会における職制「助祭・司祭・司教」のベースとなるもの、と位置付けられました。

もとは「食卓で給仕する者」を表す言葉だったようで、要するに“無報酬で働く者”ということ、ときには「奴隷」を意味する言葉としても使われたようです。まあ現代的に言えば「奉仕者」ということなのでしょう。そして、これは「愛する（アガパオー）」

という言葉ともつながります。「愛(アガベ)」を“無償の愛”と訳すことから、こちらも見返りを求めない行為、ということだからです。

その意味では、家庭で毎日、家族のために食事の用意をなさっている方々は、まさにイエスの言われた「仕える者」つまり奉仕者を実践しているよなあ…と思います。わたしも合宿でよく食事係をしていますが…よくよく考えてみると、見返りを求めてないと言いながら、実は自分もみんなと一緒においしい物を食べたい、という気持ちがいつもあるし、何よりも自分のつくった物を人が目の前で「おいしい!」と言ってくれるのは、何ものにも代えがたい喜びだよなあ…なんて思っています。まあそのくらいはご容赦ください…。

いつも「仕える者」であり続けることができますよう、祈りたいと思います。

(撮影：編集部 土方芳人)

## 「2025年聖年～希望の巡礼者～」12月29日開幕

旧約の時代、イスラエルの民は農耕地の地力を回復させるために休耕の年を定めていました。この7年毎の安息年を7回繰り返した翌年、50年目には人手に渡った土地が元の所有者に戻り、奴隷も解放されたとされます。(レビ記25章) 喜びの年の到来は、「雄羊の角(ヨベル)」笛によって告げられたため、ヨベルの年と呼ばれました。

その後、イエスによって新しい掟による礎が据えられ(ルカ4章16～19)、その上に建てられた教会においても神の恵みに感謝し、罪からの解放と、巡礼などの業によって免償を宣言する聖年(英語でjubilee)の制度となりました。50年毎という期間は、かつての平均寿命からすれば一生に一度あるかないかの間隔であったため、現在では25年に一度の通常聖年として祝われています。

さて、今年の5月9日、教皇フランシスコは聖年公布の大勅書『希望は欺かない』を出され、2025年聖年の概要が発表されました。それによれば、サン・ピエトロ大聖堂の聖なる扉が今年12月24日に開かれて聖年を開始し、2026年1月6日公現の祝日に閉じ

られるまで“すべての人が希望を取り戻す機会となるよう”勧められています。またローマの四大バジリカでもサン・ピエトロに続いてサン・ジョバンニ(聖ヨハネ)イン・ラテラノ(12月29日)、サンタ・マリア・マッジョーレ(1月1日)、サン・パオロ・フォーリ・レ・ムーラ(城壁外の聖パウロ)(1月25日)の聖なる扉も巡礼者に次々と開扉されるとのことです。

全世界の司教座聖堂においては、今年12月29日の主日に荘厳な祭儀をもって聖年を開始するよう定められました。そのため山手教会では11時30分の司教ミサで開幕されます。

この恵みの年にあたって、私たちも神の愛のメッセージとして“希望の光”をすべての人々に届けることができるよう、またキリストの教会があらゆる場所でこの福音を証しすることができるよう心に刻みたいと思います。

### 「聖年の祈り」

天の父よ、あなたは、わたしたちの兄弟、御子イエスにおいて信仰を与え、聖霊によってわたしたちの心に愛の炎を燃え上がらせてくださいました。

この信仰と愛によって、神の国の訪れを待ち望む、祝福に満ちた希望が、わたしたちのうちに呼び覚まされますように。

あなたの恵みによって、わたしたちが、福音の種をたゆまず育てる者へと変えられますように。この種によって、新しい天と新しい地への確かな期待をもって、人類とすべてのものが豊かに成長していきますように。

そのとき、悪の力は打ち払われ、あなたの栄光が永遠に光り輝きます。

聖年の恵みによって、希望の巡礼者であるわたしたちのうちに、天の宝へのあこがれが呼び覚まされ、あがないの喜びと平和が全世界に行き渡りますように。

永遠にほめたたえられる神であるあなたに、栄光と賛美が世々としえにありますように。

アーメン。

(編集部 渡邊敏行)

## 第56回横浜教区一粒会大会開催

首題の大会は10月14日（月・祝）正午から午後3時まで、国宝に指定されている松本城の水堀のそばにあるカトリック松本教会で開催されました。

今回は会場の収容人数に限りがあるため、出席者は各地区から数人のみとなり、当日YouTube配信されました。開会式は①開会宣言：大島一粒会大会実行委員長②開会・召命の祈り：長野中信地区一粒会指導司祭・近藤勉師③開会の挨拶：森山横浜教区一粒会本部委員長－でした。

講話のテーマは「召命を求めて」。講師は東京教区司祭で日本カトリック神学院院長の稲川圭三師でした。講話では、神学院の生活全般やカリキュラムなど詳細な説明があり、来年度から助祭叙階を受けるシステムの変更があるとの話もありました。

それは次のとおりです。

「現在、神学校には19人の神学生が神学院に住んで司祭への道を歩んでいます。今年度までは、最終学年である神学科4年生の年度内に助祭叙階を受け、神学院のミサで助祭奉仕をし、卒業すると同時に司祭叙階を受けるというシステムになっていたが、来年度からは神学院を卒業してから助祭叙階を受け、教区である程度の実務を経験してから司祭叙階へという流れになります。その結果、神学院の門をたたいてから司祭に叙階されるまでに、少なくとも7年から7年半または8年くらいの養成期間となります」

また、わたしの心に深く突き刺さり残った言葉は、講話の最後に語られた次のことでした。

「2019年に初めて神学校に行ったときに、最初に神学生に話したことは『人のために祈る神父になってもらいたい』でした。祈るというのは、イエスさまの十字架上の祈りに結ばれて祈ることであり、イエスさまが十字架の上で祈られた祈りが司祭の祈りの中心ではないかと思います。イエスさまは、ルカの福音書で次のようにおっしゃっています。『父よ、彼らをお許してください、自分が何をしているのか知らないのです』と。つまり、自分のことを無視し、存在そのものを否定し、バカにするような者たちに向かって『彼らをお許してください、自分が何を

しているのか知らないのです』と言われたのです。彼らが知らないこととは何か。究極的に言えば『人間のなかに神がお住まいになっておられる神の尊厳があることを知らない』と言ってもいいと思います。自分のことを無視し、理解もせず、鼻にもかけないような、その者のなかにも神のいのちがあることを知っていて、その知らない人たちのために自分のいのちを知らない人のなかに入れるために、十字架の上で自分のからだをパンのように裂いて食べさせたということがイエス・キリストがなさった祈りではないか、とわたしは理解しています。

ですから『司祭になって、人のために祈りする人になってもらいたい』という願いをもって、わたしができることは、神学生のために祈ることしかないのです。そのため、いつもしていることは、朝4時半から名簿の下から順番に、一人ひとり時間をかけて祈るようにしています」

休憩をはさんで、午後から大会ミサが横浜教区長・梅村昌弘司教主司式で執り行われました。共同祈願では、司祭の召命と成聖のために「父である神よ、あなたは、ひとり子イエス・キリストをとおして愛といつくしみを示し、キリストは救いのわざを続けるために司祭職を定めてくださいました。キリストに奉仕する司祭が増え、多くの人びとが主の食卓を囲み、希望と喜びのうちに生きていくことができますように」と心をひとつにして唱えました。

梅村司教からは「司祭の動向紹介」のなかで①ご自身が今年5月15日に司教叙階25周年の銀祝を迎えたときの一粒子からのお祝いに対する謝意②2023年一粒会大会から現在までに帰天された司祭の報告③大会参加司祭の紹介④横浜教区神学生人数の報告—がありました。

閉会の挨拶は一粒子総指導司祭の保久要師が行い、最後に梅村司教の使徒的祝福で幕を閉じました。

地方の松本教会聖堂での大会でしたが、アットホームな雰囲気、とてもすてきな大会でした。担当された長野中信地区の大会運営委員会の皆さまに感謝いたします。



松本教会



神に感謝



祭壇

感謝の祭儀：  
梅村司教



聖母子像



福音史家聖ヨハネ像



派遣の祝福



閉会の挨拶：一粒会総指導司祭・保久要師

(編集部 土方芳人)



開会の挨拶：森山横浜教区一粒会本部委員長



講話：稲川日本カトリック神学院院長

### 聖堂の避難訓練

日本語ミサでは9月28日(土)午後5時(約90人)と9月29日(日)7時半(約80人)と11時半(約100人)で、英語ミサでは10月5日(土)午後7時(約100人)と10月6日(日)9時半(約230人)で、それぞれ避難訓練を行いました。皆さんが毎年の避難訓練に慣れてきたこともあり、各ミサとも3分程度で避難を完了することができました。今年も昨年同様、事前のお知らせをしないで、なるべく本番に近い状態

で行いましたが、皆さん嫌な顔をしないでご協力いただけたことに感謝申し上げます。中には観光で横浜に来られた他教会の方や、初めて教会に来られた方もいらしたようですが、特に他教会の方は教会で避難訓練をしていることに感心されていたようです。避難訓練は誘導される皆さんにとっても「訓練」ですが、アナウンスする人や誘導する人にとっても「訓練」ですので、今後ご協力いただければ幸いです。



撮影：末澤二郎氏



撮影：柳川晋一氏



撮影：編集部 田中麻子氏

(防災委員会 委員長 小倉 謙)

## レジオ・マリエへのお誘い

レジオ・マリエ（ラテン語：Legio Mariae）とは、自発的に奉仕するローマ・カトリック教会信徒の国際的団体です。公務員であった信徒のフランク・ダフにより、ローマ・カトリック教会のマリア運動としてアイルランドの首都ダブリンで設立され、カトリック教会最大の信徒使徒職団体となっています。その使命は、慈悲のわざによって聖母マリアの旗のもとで活動会員が神に仕えることです。

早生まれの幼い私は、当時、横浜みこころ幼稚園に通っていました。そのときの園長先生は、伊藤庄二郎神父様と中村清子先生でした。思い起せば、亡き母が私を横浜みこころ幼稚園に導いてくれたのだと感謝しています。母は生前、熱心にレジオ・マリエの活動をしていました。その頃の私は、他のいろいろなことで、あまり関心がなく過ごしていました。

あるとき、先輩の女性信徒の方から声をかけられ、わりと自然にレジオ・マリエの活動を始めました。私にとっては初めてのレジオ・マリエでしたが、8月の夏休みはあるものの、継続していくことが大切だとわかってきました。メンバーが3人しかいないときなど少し不安なこともありましたが、イエス様のお導きと信じて受け止め、指導司祭のもとで前に進んでいます。コミチウム（comitium民会場）でいろいろな教会の集会に出かけ、神父様をはじめ、さまざまな教会の皆様と交流するなかで新たな気づきがあり、指導司祭のご指導により自分の信仰を見つめなおし、学びなおす貴重な、ひとときとなります。

どこの教会もそうですが、高齢化が進み、なかなかメンバーが増えないことが悩みです。先日、末吉町教会でコミチウムがありました。末吉町教会では中国やフィリピンの若い方々が活躍されていて、ジュニアの方たちも育ておられ、うれしく、頼もしく感じました。

山手教会のレジオ・マリエは、大体、月2回、午後2時から司祭・信徒館2階の梅の間で活動しています。ロザリオを持って、ぜひ一度いらっしやいませんか。特に、受洗されたばかりの方、男女関係なく一緒に活動しませんか。

心よりお待ちしております。



祭壇

(文：レジオ・マリエ 川上由美)

撮影：編集部 土方芳人)

## ロザリオ会便り

11月1日の諸聖人の祝日の翌日は死者の日、11月は死者の月です。日本のお盆に通じ亡くなった人々を偲び墓に詣でる月です。アメリカのレイ・ブラッドベリという作家は、だから死に至る闇の前の月ということで10月は、たそがれの国だとして名付けた短編集を出しました。11月2日の追悼ミサでロザリオ会は、お花をささげます。

そして、今年は11月24日王であるキリストの祝日、この日で教会の1年は終わります。この日には毎年初聖体のお祝いがあります。ロザリオ会では初聖体の子どもたちに、お祝いのカードとプレゼントを用意します。毎年そのプレゼントを選ぶのは本当に幸せなことです。

日没が早くなり日の出がどんどん遅くなる季節。そして、1年で最も夜の長い冬至がやって来ますが、すぐにクリスマス。また少しずつ日が長くなり日没が遅くなっていきます。1年も日々も等しく死と復活の繰り返しです。フランスの詩人シャルル・ペギーは、『第二の徳の秘密の大門』という作品の中で、信仰、慈愛、希望を三姉妹にたとえて、希望について「希望は来るべきものを見、それを愛し、まだ存在しない、やがて来るべきものを見て、それを愛する、未来の時、永遠の中に」と綴っています。この言葉はフランシスコ教皇も引用されています。初聖体の子どもたちも、またクリスマスに先駆ける希望の象徴であるのでしょうか。私たちロザリオ会からのささやかなお祝いが、その希望の一部となれますように願っています。

(ロザリオ会 広報 山本 紀志子)

### グロリア会からお知らせ

コロナ禍によって休止しておりましたグロリア会を開きます。男性の方もご出席ください。皆様のご参加をお待ちしております。

日時：12月4日(水)午後1時30分～3時30分終了予定  
場所：司祭・信徒館1階 松・竹

## 2024年10月度教会委員会議事要約

日時：2024年10月6日(日) 午後1時～3時20分

場所：司祭・信徒館1階「松・竹」

議事内容（議事進行：小倉委員長）

### 1 主な審議確認検討事案 ※順不同

#### (1) バザーについて

- 横濱みこころ幼稚園、ガールスカウト、ボーイスカウトで10月27日(日)のバザー開催に向けて準備を進めている。

#### 【決定事項】

- ・バザーについては今週のお知らせで周知。バザー参加については、自動車での来場を遠慮いただく旨を記載。

#### (2) 2025年6月のコンサートについて

- 来年の6月のコンサートで前日の土曜日によりハーサルを行いたい。

#### 【決定事項】

- ・現時点で他の予定はないことから承認する。

#### (3) ごみの分別について

- 10月以降横浜市におけるごみの分別方法が変更になった。罰則付きの内容となることから、ごみの分別については注意が必要。

#### (4) 備品の扱いについて

- 教会内の備品（長テーブルやパイプ椅子など）の使用後、元に戻されないケースが散見される。使用者がきちんと元に戻すように周知されたい。

#### 【決定事項】

- ・教会内施設を使用する際には、必ず事務所への届け出があると思われることから、使用者に対しチェック表の記入を求めるなど対応を検討する。

#### (5) 福島やさい畑について

- 11月3日(日)を希望。雨天の場合は教会ホールを使いたい。

#### 【決定事項】

- ・承認する。

#### (6) 赤い羽根共同募金について

- 例年どおり1万円を送金した。

#### 【決定事項】

- ・了承した。

## (7) 七五三の祝福について

- 11月17日（日）11時30分のミサとし、お祝いについては例年同様に千歳飴とおメダイとした。

## 【決定事項】

- ・承認する。

## (8) 死者の月のお祈りについて

- 10月13日（日）から祈っていただきたい方のお名前を書く紙を聖堂後ろに置く。

## 【決定事項】

- ・基本的に土曜日の午後5時のミサと日曜日の7時30分のミサで追悼を行う。

## (9) 合同納骨、司祭による墓地でのお祈りについて

- 合同納骨式は、11月2日（土）に行う。
- 墓地でのお祈りについては、11月6日10時（相澤墓地）、10時30分（山手墓地）。

## (10) 降誕祭と通常聖年開幕の祭儀について

- 昨年用意した「聖書と典礼」は300部ほど残ったので、今年は発注数を減らす。
- 主の降誕（夜半のミサ）は、横浜雙葉学園の講堂で日英合同のミサとする。

## 【決定事項】

- ・降誕祭については、引き続き典礼委員会で検討を進める。
- ・通常聖年の開幕ミサを12月29日（日）11時30分から梅村司教司式により山手教会で行う。

## (11) ロザリオ会から

- 聖堂の座席について座面が固いために座布団などの要望が出ている。

## 【決定事項】

- ・座布団（クッション）を個別に貸し出す形で形状などを検討し、試運用を事務所、ロザリオ会で検討する。

## (12) クリスマスのガードマンの配備について

- クリスマスにおけるガードマンの手配は昨年と同様でいいか。

## 【決定事項】

- ・昨年と同様とする。

## 2 今後の活動、報告事項

## 【教会学校の初聖体パーティについて】

- 11月24日（日）午後1時から初聖体のパーティを開催。

- 本来、教会全体でお祝いをすべきところだが、感染症などを考慮して教会学校の関係者のみとする。

## 【第3地区全体会について】

- 次回の第3地区全体会は、10月27日（日）午後3時から港南教会で行われる。

## 【ロザリオ会より】

- 11月のロザリオ会主催のミサについては、ダリル師に司式いただく。

## 【ヨゼフ会より】

- 11月2日（土）10時から追悼ミサを行う。

## 【財務より】

- 月定献金については、コロナ以降徐々に回復しているものの以前の収入には届いていない。支出に関しては大きな案件はない状況。

## 【福祉委員会より】

- ステラマリスで毛糸の配布を実施した。

## 【典礼委員会より】

- 主日のミサの奉仕者を対象とした勉強会を11月10日（日）12時30分から行う。
- 朗読奉仕の方の勉強会については、10月20日（日）12時30分から行う。

## 【聖堂の空調設備更新の議論の途中経過報告】

- 聖堂の空調機に関しては使用頻度を考慮しつつ更新を検討する。

## 【ICCより】

- 10月5日（土）の午後7時および6日（日）の9時30分ミサ後に避難訓練を実施した。おおむね2分から3分程度で避難は完了した。

## 【情報システム委員会より】

- 大規模修繕完工記念・絵はがきセットの増刷分については、まもなく納品予定。

## 3 主任司祭から

- 10月10日（木）に関東学院中学校高等学校の保護者会の方々が来訪される。
- 来年の司教訪問希望に関して山手教会としては、6月8日（日）を希望として提出する。（堅信式を予定）

## 4 次回教会委員会

2024年11月3日（日）午後1時～3時終了予定。

（総務担当 宮 裕一）

2024年11月・12月主日ミサの聖歌および奉仕者予定表

	主 日	聖 歌			聖歌隊	時 間	奉 仕 者				備考
		答唱詩編	アレルヤ唱	ミサ曲			オルガン	先 唱	聖書朗読		
11月10日	年間第32主日	典19 ①③④	典274 年間32B	ミサ曲A 典605~9	*	前日pm5:00	手 塚	齋藤(悠)	小佐井	福田(直)	
						7:30	中 川	二 宮	大濱(学)	大濱(美)	
						11:30	佐 藤	遠 藤	佐藤(日)	池田(恵)	
17日	年間第33主日	典98 ①②③	典274 年間33B	ミサ曲A 典605~9	*	前日pm5:00	藤 沼	工藤(元)	飯 塚	志 村	
						7:30	渡 邊	末 澤	松村(健)	仁井田	
						11:30	手 塚	小 山	大島(寛)	上田(敏)	
24日	王であるキリスト 年間第34主日	典39 ①②③	典266 王である キリスト	ミサ曲A 典605~9		前日pm5:00	村 松	宮(裕)	工藤(元)	稲見(友)	
						7:30	手 束	亀 井	加藤(正)	山本(真)	
						11:30	太 田	子どもとともに、ささげるミサ			
12月1日	待降節第1主日	典137 ①②③	典255 待降節第1	ミサ曲A 典605~9	*	前日pm5:00	太 田	柳 川	工藤(元)	櫻井(智)	
						7:30	太 田	石 賀	古谷(信)	武田(登)	
						11:30	手 塚	山本(紀)	高橋(佳)	寺本(宏)	
8日	待降節第2主日	典154 ①②③	典255 待降節第2	ミサ曲A 典605~9	*	前日pm5:00	村 松	工藤(元)	牧野(利)	阿部(眞)	
						7:30	中 川	二 宮	大濱(学)	大濱(美)	
						11:30	佐 藤	遠 藤	高橋(佳)	池田(恵)	
15日	待降節第3主日	典164 ①②③④	典255 待降節第3	ミサ曲A 典605~9	*	前日pm5:00	村 松	齋藤(悠)	小佐井	福田(直)	
						7:30	渡 邊	末 澤	松村(健)	仁井田	
						11:30	太 田	子どもとともに、ささげるミサ			
22日	待降節第4主日	典80 ①②⑤	典257 待降節 第4BC	ミサ曲A 典605~9		前日pm5:00	藤 沼	竹之内	飯 塚	志 村	
						7:30	手 塚	亀 井	加藤(正)	山本(真)	
						11:30	中 川	村田(義)	大島(寛)	上田(敏)	
24日	主の降誕(夜半)	典148 ①④⑤	典258 主の降誕(夜半)	ミサ曲A 典605~9	*	pm8:00	佐 藤	選定中	選定中	選定中	雙葉学園 講堂
25日	主の降誕(日中)	典149 ①②③	典258 主の降誕(日中)	天使ミサ カ503	*	11:30	米 沢	選定中	選定中	選定中	
29日	聖家族	典102 ①③④	典258 聖家族	ミサ曲A 典605~9	*	前日pm5:00	忠 海	宮(裕)	工藤(元)	未確定	
						7:30	手 束	時 久	梅田(啓)	稲葉(千)	
						11:30	米 沢	村田(義)	小松(美)	荻原(恵)	

編 集 後 記

その日の朝は快晴で風が強く吹いていました。主日の11時30分ミサでの聖歌隊奉仕の事前練習に参加するため教会に向かっている途中、街路樹から大型の黒い蝶が飛び出し、風に乗って自由自在に舞い降りて来ました。逆光を浴びながら、それは美しく艶やかに舞っていました。長い時間をかけて地面に降りて来たので、そばに行き確認すると、何と寿命を終えた枯れ葉でした。逆光で真っ黒に見えていたため、枯れ葉とは全く気づきませんでした。今年の春に樹木の枝から小さな、かわいらしい芽を出し、次第に柔らかい薄緑の葉に成長し、夏には濃い緑の葉となり、樹木に茂って太陽光を防ぐ大きな木陰を作って人間や動物たちにやすらぎの場を提供し、秋には錦をまもって晴れ舞台に登場し、最後に蝶のように艶やかに舞いながら地面に落ち、やがて腐葉土として自分を育ててくれた樹木に栄養を与えて恩返しをする。大自然は1枚の樹木の葉にも、このような生き方を提供しています。これからの残り少なくなった人生を精一杯、神さまに感謝しながら生きていこうと思います。

(土方芳人)

☆表紙のカット(山手教会)は、濱尾文郎枢機卿様の「えはがき」です。